

# 憲 法

江島晶子・山元 一・巻 美矢紀  
村西良太・栗島智明

## 1 はじめに

今期から筆者らが担当する（担当箇所は個別に明示）。本欄で取り上げるのは、本誌の昨年10月号から本年9月号の文献月報に掲載された著書・論文である（なお、公刊時期等の関係で対象期間外でも、筆者らの判断によりレビューを行ったものがある）。本欄は、基本的に従来の方針を引き継ぎ、研究キャリアの比較的浅い研究者（early career researchers、以下、ECR）による業績に比重を置きつつ、その概要の紹介を行うとともに、代表的な研究業績のリストアップを行った。原則として、外国憲法に特化したものは取り上げず（ただし、ECRの場合には比較法研究が中心となるため例外もある）、判例評釈・翻訳・書評・一般向けの書籍や雑誌記事なども原則として取り上げない（なお、例外的に筆者らの判断によりレビューを行ったものがある）。

## 2 論文集・雑誌連載・雑誌特集・教科書

今期は、国際人権法学会30周年企画として『新国際人権法講座』（信山社、以下、新講座Ⅰ～Ⅶ）全7巻のうち第1巻から第5巻および第7巻が発刊され、相当数の憲法学者が寄稿し、人権に関する学際研究として注目できる。記念論文集としては、野坂泰司古稀記念として青井未帆ほか編『現代憲法学の理論と課題』（信山社、以下、野坂古稀）などがある。

学会活動の成果としては、日本公法学会編『公法研究84』（有斐閣、以下、公法）、憲法理論研究会編『多様化する社会と憲法学（憲法理論叢書31）』（敬文堂、以下、憲理研）、全国憲法研究会編『憲法

問題35』（日本評論社、以下、憲法問題）、比較憲法学会『比較憲法学研究34』（以下、比較憲法学研究）、憲法学会『憲法研究55』（以下、憲法学会）などが刊行された。

雑誌特集等については、辻村みよ子責任編集『憲法研究』（信山社、以下、憲法研究）13号では「特集／憲法と人権のグローバル化」、同14号では「特集／統治機構と憲法動向」が組まれた。そのほか、先期よりサービスを開始した有斐閣Onlineロージャーナル（以下、YOL）において「特集／統治構造改革30年」が組まれた。

選択的夫婦別姓、同性婚、性同一性障害者特例法、旧優生保護法（最高裁は後二者について違憲判断）など、家族や性のあり方、そして過去の不正義が問い直される一方、人権の救済という観点から理論と実務の協働が進展し、統治構造のあり方を問う特集が組まれたことが今期の特色である。

雑誌連載としては、「実務と学説からみた憲法訴訟(1)～(7)」（判時2573～2591）、高田篤「憲法の基本原理からみる統治(1)～(5)」（法教523～527）、江藤祥平「憲法よりもまだ深く(1)～(4)」（法セ831～835）、などの連載が開始された。今期継続中のものとして、宍戸常寿「判例講座・憲法人権(15)～(20)」（警察学論集76.10～77.5）、法学教室連載の「演習 憲法」〔尾形健（法教517～522）から遠藤美奈（法教523～527）〕、「ドイツ憲法判例研究(269)～(277)」（自研99.10～100.7）、「幻の創文社版『憲法綱要』とその批判的検討(8)～(18)」（法時95.9～96.10）、「FOCUS憲法Ⅳ(5)～Ⅴ(1)」（法セ825～835）などがある。一方、今期は、駒村圭吾ほか「Law of IoB(17)～(23)完」（法セ824～830）、柴田憲司ほか「憲法事例分析の技法(19)～(24)完」（法教517～522）、「憲法と行政法の交差点(19)～(28)完」（法セ825～834）、「宗教団体とデモクラシー・法(1-1)～